

令和2年度 学校総括評価表

徳島市北井上中学校

自己評価				次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	
規範意識や思いやりの心を持ち、自ら考え行動できる生徒を育成する。	1 相手の気持ちを考えた言動ができるようにする。 2 自ら考え、行動できるようにする。 3 あいさつの習慣を定着させる。	評価指標 1 相手の気持ちを考えた言葉遣いができていると考えている生徒が70%以上いる。(アンケート調査) 2 自分の気持ちを素直に表現したり、自分で考え行動することができたと考えている生徒が70%以上いる。(アンケート調査) 3 あいさつをきちんとできたと考える生徒が、70%以上いる。(アンケート調査)	評価指標の達成度 1 できていると考える生徒が67%であり、目標を達成できなかった。 2 できたと考える生徒が63%であり、目標を達成できなかった。 3 できたと考える生徒が90%であり、目標を達成できた。	・それぞれの学年において様々な体験的な学習に取り組む予定であったが、コロナ禍の中、学校行事や部活動での生徒の活躍の場が減り、『目標を持って生活できた』と答える生徒が減少した。学校生活に関しては概ね高い自己評価を示している。今後さらに新たな企画を模索し、継続的に進めていく。 ・『特別の教科 道徳』の実施2年目の反省をふまえ、道徳の年間計画に人権教育をどのように位置づけていくかさらに検討し、より本校の実態にあった計画の作成と授業の実施に取り組んでいく。 ・『朝のあいさつ運動』を生徒会を中心に継続することにより、笑顔のあふれる学校づくりに取り組んでいく。
		活動計画 1 生徒一人一人の人権感覚を高める取り組みを実施する。 2 集団の中で、生徒自身が自ら考え行動する機会を行事や体験的な活動等を通してつくる。 3 あいさつ運動を実施する。	活動計画の実施状況 1 道徳の授業を中心に普通の授業を参観する取り組みを実施した。また、各学年で研究授業を実施し、校内研修を行った。 2 防災学習、食育パワーアップ作戦等は実施できたが、非常食炊き出し体験(1年)、職場体験(2年)、保育実習(3年)等、各学年において、体験的な活動を取り入れた学習が実施できなかった。 3 生徒会を中心に『朝のあいさつ運動』を計画的に実施した。	
生徒一人一人に個に応じた確かな学力を育成する。	1 基礎的な知識や技能を習得するとともに、それを活用して課題を解決するために必要な思考力等を育成する。 2 自ら学ぶ力を身につけさせる。	評価指標 1 朝の読書にまじめに取り組んでいると考えている生徒が70%以上いる。(アンケート調査) 2 授業中に自らの考えを積極的に発表できたと考えている生徒が45%以上いる。(アンケート調査) 3 1日平均1、2年生は2時間、3年生は3時間の家庭学習ができていると考えている生徒が過半数以上いる。(アンケート調査)	評価指標の達成度 1 取り組めたと考える生徒が78%と目標を達成できた。 2 できたと考える生徒が45%であり、目標を達成できた。 3 1年生50%、2年生41%、3年生50%であった。目標まであと少しなので改善可能である。	総合評定 (評定) B (所見) 昨年に引き続き、家庭学習の充実を教職員共通理解のもと取り組んできたが、まだまだ十分ではない。『自分の考えを発表する』は、新学習指導要領でも求められる、育成すべき力と捉え、今後とも場面を設定し、日々の学習活動の中で粘り強く取り組んでいく。2の項目は昨年度より10%増加している。
		活動計画 1 朝の読書や図書カード記入により読書習慣の定着を図り、表現力等の基礎を養う。 2 授業中に自ら考え発表する機会をつくることにより、思考力を養う。 3 自主学習の仕方についてアドバイスをし、効果的な家庭学習の習慣を身につけさせる。	活動計画の実施状況 1 図書委員による本の紹介、授業でのポップ制作、図書カードの利用等、図書館利用を増やす取り組みをした。 2 コロナ禍の中であるが、発表の機会を減らさない授業展開を計画し、思考力を高める工夫をした。 3 家庭学習を実施する生徒は増加傾向にある。また、毎週水曜日をノー部活ディとし、質問教室を実施した。	

自己評価				次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	
健康に留意し、基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	1 健康の大切さを理解させる。 2 時間を守ることの大切さを理解させる。	評価指標 1 健康や体づくりに関しての行事は役に立っていると考えている生徒をできるだけ100%に近づける。(アンケート調査) 2 時間を守ることができたと考えている生徒が75%以上いる。(アンケート調査)	評価指標の達成度 1 役立っていると考える生徒は80%であった。コロナ禍で実施不可能な行事が多数あった。 2 82%の生徒ができたと考えており、目標は達成できた。	総合評定(評定) B (所見) 本年度も様々な講演会・講習会を計画していたが、すべてを実施することはできなかった。来年度に向け今後よりいっそう内容を吟味し、マンネリ化を防ぎ、生徒が興味関心を持てる内容の企画を検討していく。
		活動計画 1 健康や体力づくりに関する活動や行事を実施する。 2 学校生活の中で時間を守ることの意義について、機会を捉えて指導する。	活動計画の実施状況 1 薬物乱用防止教室、食育パワーアップ作戦は実施できたが、ブラッシング指導、救急救命法講習会、防災炊き出し体験等は実施できなかった。 2 予鈴での移動等、教職員共通理解のもと指導を行った。	
開かれた学校づくりをめざす。	1 保護者や地域に対して、積極的に情報発信をする。	評価指標 1 学校は家庭連絡をきちんとしていていると考える保護者が70%以上いる。(アンケート調査) 2 学年だより等学校からの各種たより等を通じて学校の様子がよくわかると考えている保護者が70%以上いる。(アンケート調査)	評価指標の達成度 1 家庭連絡ができていると考える保護者が76%であり、目標を上回ることができた。 2 73%の保護者が各種たよりをよく読んでいると考えており、目標を達成することができた。	総合評定(評定) B (所見) 各家庭・地域に対し、学校行事や各種便りを通じて情報を発信してきた。概ね目標を達成できたと考える。しかし今年度は実際に生徒の活動を見ていただく機会が少なかった。今後とも、『開かれた学校』を念頭に、情報発信の工夫に努めていく。
		活動計画 1 日頃の連絡や三者面談、オープンスクール等を通じて、できるだけ子どもたちの学校での様子がわかるよう取り組む。 2 学年だより等の各種たよりを通じて、教育活動の様子について積極的に知らせる。	活動計画の実施状況 1 日頃の連絡はもちろんのこと三者面談・オープンスクールを実施したが、回数は制限された。また北中祭は映像で開催、連合運動会等は中止となった。 2 学年だより・給食だより・保健だより等を月一回発行するとともに、HPを利用して発信することができた。	

「評定」の基準 A:十分達成できた。 B:おおむね達成できた C:達成できなかった

<学校関係者評価>

- ・ コロナ禍の中一致団結して、1年間大きな問題等なく安心・安全に過ごせたことは評議員として、大きな喜びであった。引き続き適切な指導をお願いしたい。
- ・ 部活動に対しては生徒、保護者の本音を聞き取り、実情にあった改善策を考える。
- ・ 子どもたちの様子を見ると、たいへん落ち着いて授業を受けられている。学習規律や服装等がきちんと守られている。
- ・ 水曜日に実施されている質問教室では、多くの生徒が積極的に先生に質問できている。非常に良い傾向なので継続してほしい。
- ・ 不登校の対処では、子どもたちや保護者の願いを正面から受け止め、具体的な手を打つとともに魅力的な学校づくりをする。
- ・ これから入試シーズンを迎えることになるが、生徒たち一人一人の希望に添った進路決定へ向けてサポートしてほしい。
- ・ GIGAスクールに関しては、生徒のためになる活用法を研究する。